

第1回 鳴門市地域福祉講演会

平成28年8月6日13時30分～15時45分

於 うずしお会館 第1会議室

講師 公益財団法人 さわか福祉財団 戦略アドバイザー

土屋幸己認定社会福祉士

⑤地域の中にある問題

で、その地域の中にどういう問題があるかということ、孤立死とか孤独死とか呼ばれるものたくさんありますよね。東京23区内の調査で、孤立死っていうのが年間2718人いました。その多くが男性の単身者なんです。だから男性で1人暮らしの方は孤立死する可能性が非常に高いということなので、これ重要なんです。男性で1人暮らしになったら、手を挙げて地域の人に「私は男性の1人暮らしなので、孤立死しちゃう可能性があるから、地域の人見守ってください」って言っとかないといけないんですね。で、そうすると、地域の人たちが毎日1回から週に2.3回かな、「何々さん元気?」「あ、元気元気」「よかった」「ありがとう」って見守られるわけです。だけど「ほっといてくれ、俺は俺のやり方で生きるんだから近所と縁を切る」って言っていると、近所の人も見守りに来てくれませんから、「最近あの、土屋さん1週間も見ないけどさ、心配だよ」なんて行ってみると、もう中で悲惨な状況になっているってことになるんですよ。これ、自分で自分の助け、SOS出すっていうのは自助の重要なポイントになるわけなんですよ。だから、拒否する人は孤独死になっちゃう可能性があるってこと。

それからあと徘徊者、不明者ってことで、徘徊って言葉も最近あんまり使いませんが、要するに認知症になって、迷子になってしまう、行方不明になってしまう人たち。これ平成22年に警察が発表してるんですけど、年間に1万。1万数百件、認知症だと思われる行方不明事件が起きてるんです、全国で。で、その中で、1年間900人くらいが行方不明になってる。これ、まだ実態掴めてないんですけどね。多くが認知症の高齢者で、発見・保護に時間がかかるっていう風に言われています。これですね、行方不明になって、1日以内に届け出を出して発見できる生存率と、3日過ぎての生存率って、著しく落ちてくるんですね。だから、富士宮市でも、当初、認知症の行方不明者が出た時に、例えば家で、在宅の認知症の方が行方不明になる。家族は責任を感じて、夕方遅くまで探して、日が暮れてくると心配だから、警察に届け出。デイサービスセンターで利用中に、認知症の人が行方不明になる。責任を感じて、デイサービスセンターの方たちが、夕方まで探して、日が暮れてから警察に届け出る。そうすると、認知症で元気な方は1

時間に大体 4km から 5km 歩きます。もう 2 時間探さないと 10km 歩きます。富士宮市出て行っちゃうんですよね。もういくら探しても見つからないんです。だから、私たちは、行方不明に気が付いたらすぐに、警察に連絡をする。で、その間に、ケアマネとか包括支援センターとか、関係機関に連絡する。そういうマニュアルを作りました。だから、いまは行方不明になったら即警察。そうすると警察は、それを受理して、市役所に連絡して、防災無線で実名で「富士宮市山宮の土屋幸己さん 58 歳が、行方不明になっている。特徴は小太りで」小太りってどれぐらいが小太りなのかなってみんな妄想するんですけど、で、そういうった放送が流れると、大体 1 時間か 2 時間でピンポンパンパンって鳴って、「先ほどお伝えした何々町の何々さんは、無事保護されました」。非常に早くこう発見されるんですよね。で、そういったことも、地域の人たちが「認知症ってどういう人かな」ってわからなければ、認知症の人発見できませんよね。そうですね。よく認知症徘徊模擬訓練をやります。そういう時は、黄色たすきをかけて歩いているから、たすきを見たら認知症ってわかるんです。だけど、たすきをかけてない本当の認知症の人がどういう人かなって知らなければ、発見できませんよね。だから、まず住民の皆さんに知ってもらおうと思って、サポーター講座をずーっと開きました。最初はですね、平成 20 年からサポーター講座を始めて、その時のサポーターは 35 人でした。それが、平成 25 年には 1 万人を超える、いま 1 万 2000 人弱ぐらいのサポーター、これは小学生からご高齢の方までですね。そういう人たちが地域にいと、例えば、1 点を注視しながら歩いている人がいると、「ちょっと心配かな」って気が付くわけですよね。で、コンビニでうまくお金が払えない、心配だなんて気づくわけですよね。そうなるとうこういった徘徊行方不明者が防げる。そのためにも、住民の力が大事なんです。行政や包括支援センターだけでは、とてもたくさんいる認知症の方の支援はできないってことになりますよね。

それから高齢者虐待。これもいま地域で非常に増えています。どういったものが高齢者虐待にあたるのかっていうのを、民生委員さんや住民の方が勉強していないと、虐待かなって通報できません。いま児童虐待の通報件数が増えていますよね。で、これっていうのは、実際に虐待が起きてるかどうか確認するのは行政の仕事だから、地域の皆さんは、子どもの泣き声とか親の怒鳴り声とか、そういうのが聞こえたら通報していいですよ、という風に通報義務を変えたんですよね。泣き声通報なんて言いますが。そうすると、通報がどんどん入ります。普段の確認する行政は大変になりますが、それで救われる命がたくさんあるという。だから高齢者虐待も、例えば認知症の方がいつも怒鳴られてたり、暴力を振るわれてたり。これは家庭内の出来事だと思わないで、住民の皆さんが勉強してくれば通報をします。守秘義務は守られます。どこの誰が通報したかなんていうことは通報先には言いません。で、行政の包括支援センターとか行政がしっかりと事実確認をして保護しますから、こういったことも住民の皆さんが協力していただかないと、うまくできないということですよ。併せて児童虐待。これに関しては今言った通りで

すよね。子どもの虐待に関しても、いま通報件数がどんどん増えています。そして、重要なのが、虐待をしている人たちが悪いわけではないですよね。認知症の方が同じことばかり言うから「うるさい」って怒鳴るわけですよ。行方不明になっちゃうから鍵かけるわけです。でも、そういう方たちの支援も、行政の仕事ということになっていきますから、住民の皆さんはそういう事実を伝えていただければ、これが重要な役割ということになってきますね。

それからあと障害者の方たちも、長年、精神科病院なんかに入院させられた人たちを、しっかりと地域に移行しようという動きが出ていますので、今まで入院していた精神科の入院患者の方たちが地域に出ていきます。その時にいまも事件が起きていますけれども、精神障害を持っている人が、みんな凶悪な犯罪をすと思うと、地域は排除にかかってきます。だけれども、しっかりとしたプログラムを通して、地域に対応してきて。で、当然、放置するのではなくて、訪問看護師とか地域の見守りがある中で、生活をしていく。これは、人間の人権を守るという部分ですから、ここも重要なことになってきます。私の知った被害というのは、悪徳商法も横行していますし、災害時に自分で避難できない災害時要援護者の方もたくさんいます。

いま個人情報に壁になって、災害時要援護者の情報をみんなで共有しようとするとなかなかできません。これ、災害時と思うからできない。災害時に支援の必要な人の多くは、平常時、普段も支援が必要な人ですよね。だから、普段支援が必要な人の見守り体制を作っていれば、災害時はそれが災害時の要援護者支援になるということなんです。実は、東北の大震災が起きた2日後、3月16日に、富士宮市の富士山の活断層がずれて、震度6強のものすごい地震の見舞われました。ただ、その最中だったので、テレビ報道などほとんどされなかったのです。6強ですよ。そんな地震が起きてるなんて誰も知りません。で、活断層、私の住んでいる2km上で震源地が発生しましたので、私の家の周りにはもう全部瓦が落ちて、すごい状況になりました。で、その時に、災害時要援護者台帳に載っていた方というのが、2400名でした。で、実際に、民生委員や自治会長さんが、自主防から見守りした安否確認が届いた数というのが、4600人でした。ということが、2400人でいいはずが4600人来ているということは、自主防でも見守ってくれて、地区社協、地域でも見守ってくれて、報告が入ったということになるわけなので、日頃の安否確認体制、日頃の見守り体制ができているということは、災害時にもしっかりと機能するということなんです。そんなこともあって、災害時要援護者、これも地域の皆さんのお力が非常に重要なんだと。で、どんなことが欲しいかと言うと、時々ちょとしたことの手助けに困る人々。こういう人たちが多いですよね。ごみ捨てができない、電球の交換ができないとかね、重い荷物を動かさない。ところが、居場所が1つできます。元気な高齢者の人たちも通ってます。「ちょっと、最近1人暮らしになっちゃって、2階の重たい荷物が下ろせなくて困ってるよ」で、そういう風におばあちゃん、高齢の女性が呟くと、元気な男性も来ているわけなので、「それぐらい俺が行ってすぐ

やってやるよ」と、パツとこう、降ろしてくれるわけですね。そうすると、それはもう助け合いですよね。で、今度男性の方が、「ボタンが取れちゃって、自分で繕いできなくてカミさん死なれちゃって困ってる」「この間助けてくれたので私やります。」これも助け合いですよね。そういうような助け合いが、しっかりと制度の外にあるニーズに対応できるのが、助け合いとか支え合いで重要な要素ってことになります。このように、制度の谷間とか、制度の外にあるニーズというのは、公的な支援だとできませんから、地域の助け合いや支え合いが重要な要素になるってということなんですね。